

歴文クラブ 30年12月研修会

「地元史探訪と座学」

1. 実施日： 平成30年12月4日（火） 雨天実施
2. 集合場所： 近鉄奈良駅 行基像前 9：00集合
3. 行程・スケジュール：
午前の部： 9：00～12：30 ぶらり北町・奈良街道沿いを巡る
奈良駅（9：00）～一乗院門跡～轟橋～雲井坂～西大門跡～威徳井～
焼け門～御拝壇～転害門～石橋～北山十八間戸～夕日地藏～般若寺～
上村牧場～竹田鹿せんべい～奈良少年刑務所～多門城跡～聖武天皇・光明皇
后陵～奈良女子大～興福寺中金堂
午後の部： 13：30～15：30 座学
場所・・奈良市中部公民館3階 視聴覚教室
奈良市上三條町23-4（上三條町交差点） 0742-26-6506
テーマ・「正倉院に伝わる秘密の厨子」
—正倉院に伝わる天武天皇遺愛の厨子から、歴代天皇の相伝由来
が見える—
講師・・NPO 平城宮跡サポートネットワーク 理事長 鈴木 浩氏
4. 資 料：
 - 1、ぶらり、きたまち
 - 2、興福寺、東大寺
 - 3、座学

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ

担当世話人：永井孝次 田代一行 鈴木末一
（事務局： 中井弘 Tel 090-2381-1122）

1、ぶらり、きたまち

(by 永井・田代)

1. 一乗院門跡

裁判所、文化会館のある場所に興福寺の一乗院があった。一乗院は、大乘院と並ぶ興福寺の二大門跡で、15代将軍「足利義昭」なる覚慶は一乗院の僧侶であった。

2. 轟橋（南都八景）

雲井坂を上り切った所にみどり池があり、みどり池から流れて出た小さな川に轟橋が架けられていた。石碑前の歩道の長方形の石3枚がその跡を示す。東西約8,5m、南北約0,4m 小さな橋。橋の上を荷車が通ると轟音の様に響いたので付いた名前。

『轟橋の行人』は歌に詠まれた南都八景の一つ。

3. 雲井坂（南都八景）

南都八景の一つ。急な登り坂に霧雨が降る様子が美しかったのでしょうか。この付近は急な坂であったため、今の「押上町」は、荷車を押し上げたから付いた名前。

4. 東大寺西大門跡

奈良公園「みどり池」の北側に位置する遺跡

現在は『東大寺西大門跡』の石碑が設けられている以外には僅かに礎石が残るのみとなっている。1583年に暴風で倒壊するまでは現存する「東大寺南大門」上回る、巨大な門があったとされる。この門に架けられていた扁額には、『金光明四天王護国之寺』（東大寺の正式名称）と記され、東大寺ミュージアムに展示されている。西大門から西に伸びる道（道幅36m）は旧二条大路であり、平城宮の朱雀門から直線で結ばれており、東大寺の正門のような役割を果たしたとされている。

5. 威徳井

奈良街道が吉城川と交差する所に威徳井橋が架かっていて、この橋の北側に井戸があり、名水として有名。小野小町が奈良を訪れた時「したしきが 同じ流れや汲みつらん おとどひの子やいとこいの水」という歌を残している。

(注)「おとどひ」とは姉妹のこと、「姉妹の子はイトコ」と掛けたか。

6. 東大寺焼門・中門跡

奈良街道沿いから東大寺境内に入る位置に、かつて存在した東大寺の大きな門跡がある。これが東大寺「焼門」跡である。「きたまち」周辺の門は南から西大門・中門・転害門と三つ並ぶような形式になっているが、現在は転害門しか残されていない。

7. 御拝壇

焼門の東側に2m四方の四角い石の台が有る。この石は天平勝宝6年(754年)4月 聖武天皇が受戒したとき、ここに座して大仏殿の方を向いて三礼した後に堂に入ったという。

8. 東大寺転害門 (国宝)

てがいもん 転害門・佐保路門・西北大門・てがきもん てんがいもん 手搔門・礪礎門・だいもん 大門・かげきよきもん 景清門など呼称を持つ。現在は災いを転じる門として、転害門と呼ばれている。創建は760年頃(確定した記録はない)。南北約17m、東西約8m、高さ約11m 三間一戸八脚門、三棟造りで堂々たる木組みの門。1194年～5年、頼朝の参拝に際し、棟を持ち上げるなど大きく改修。1931年～32年(昭和6年～7年)解体修理、老朽柱3本取り替える。石段の盃状穴(乳鉢状の穴)は鎌倉時代以降の民間信仰によるものと推定される。柱には矢尻跡、鉄砲跡がある。

10月5日手向山八幡宮の祭礼の御旅所となり、注連縄は4年に1回新調される。

9. 石橋

今在家町の佐保川に架かる長さ15mの大きな石橋。本洲では石橋は珍しく、慶安3年(1650年) 奈良奉行所によって架けられた南都で唯一の石橋。

10. 北山十八間戸

国指定・史跡

鎌倉時代中頃、忍性が当時、不治難病の患者救済のため、北山(奈良の北の山)に宿舎を設けたもので、初め、般若寺の北東に建てられたが1567年に焼失。その後(1661年～1673年)に東大寺・興福寺の堂塔を南に展望し、不幸な人々の養生にふさわしい今の地に移転建築された。

建物は鎌倉時代の遺風を受け継いだもので、十八の間数と仏間を設け、裏戸には縦に『北山十八間戸』と刻まれている。慈善事業の遺跡として著名。忍性は西大寺の叡尊上人の弟子で、戒律復興と社会福祉事業に努めた僧である。

11. 夕日地藏

室町時代後期 (1509年)

北山十八間戸のすぐ向かいの建物の陰にある。像高1.88m 蓮華座を含めると2.40m 大きな地藏石仏。興福寺の僧 淨胤が死後の冥福を祈って造立したもの。

この地藏さまは歌人・会津八一の歌で有名。

ならぎかの いしのほとけのおとがいに こさめながるる はるはきにけり

12. 般若寺

真言律宗 本尊 文殊菩薩

629年高句麗僧の慧灌えいかんが創建したと伝えられる。756年の[東大寺古図]に伽藍が見える

ところから、この頃までに成立したことは確か。895年頃に理源大師聖宝の弟子観賢^{かんげん}が学問道場を開いて中興、平重衡の南都焼討で伽藍が焼失するも、鎌倉時代に西大寺の叡尊と忍性が再興した。高さ14m 十三重石塔（重文）は宋の石工、伊行末の手になり、近年修理の際に奈良時代の銅造如来立像、鎌倉時代の金銅舍利塔・金銅五重塔・水晶五輪塔4基・箱入法華経などが発見された（一括で重文）。国宝の楼門は鎌倉建築である。

1 3. 植村牧場

牧場主は現在4代目。明治17年創業。明治時代からの木造瓦葺の牛舎はそのまま使われている。日本の牧場建物では一番古いといわれる。現在30頭の牛を飼育し、1日1500本の牛乳を近隣の一般家庭や奈良ホテル、レストランなどに宅配している。牛乳やソフトクリームは濃厚でおいしい。

1 4. 「武田俊男商店」鹿せんべい専門メーカー

大正時代に春日大社からエサ製造を承認された老舗で、奈良公園で販売されている鹿せんべいの8割を作っている。シカの保護に取り組む財団法人「奈良の鹿愛護会」から現在5社ほどがお墨付きを得ている。愛護会は証紙を販売し、売り上げは鹿の保護にあてられている。証紙は100%パルプに大豆インクで印刷されており、鹿に無害である。

1 4. 奈良豆比古神社

祭神 施基親王^{しきのみこ}、平城津彦神^{ならずひこのかみ}、春日王

祭神は春日大社との関係が深く、古くは奈良坂春日社と呼んでいたようで、石灯籠にも春日社と刻まれているものがある。

中央に祀られる平城津彦神は奈良山の神といわれる産土神^{うぶすなかみ}と思われる。向かって右側の施基親王（志貴皇子）は天智天皇の第七代皇子で光仁天皇の父。春日皇子と号し、のちに春日宮天皇と追号される。左側の春日王は志貴皇子の第二皇子で矢田原太子と号し、土俗八幡神という。白壁王（光仁天皇）と兄弟。

771年施基親皇を奈良山春日離宮に祀ったのが始めとある。

1 5. 奈良少年刑務所

国・重文（H29指定）H29年3月末閉鎖

この美しすぎる監獄が出来た背景には、明治時代、外国人を日本の法律で裁く事が出来ない不平等な条約が有り、その改正のためには、近代的な法治国家として対等に渡り合える様になったことを内外に示す必要があった。その方法として諸外国に劣らない近代的な監獄や法制度の整備が必要であり、国が監獄施設の近代化を目指して造った煉瓦・石造りの建築である。

明治の五大監獄（千葉、金沢、奈良、長崎、鹿児島）の一つで、唯一、竣工時の姿で現存。同刑務所は明治政府の技師だった山下啓次郎（ジャズピアニスト山下洋輔の祖父）が設

計。ロマネスク様式の表門、放射状に延びる廊下の扇の要の位置に中央監守所がある。廊下は遠くに行くほど僅かに傾斜している。

ここに収容されている受刑者は初犯など 26 歳未満の受刑者。総合職業訓練施設として、さまざま職業訓練を受ける受刑者を全国から受け入れていた。収容定員 697 名、ピーク(2003 年～04) 時は 800 人近く収容。

今後は民間企業 G 社に運営委託され、2021 年から資料館などを併設した国内初の『監獄ホテル』として、改装工事などが始まる予定。

17. 多聞城跡

標高 115m 眉間寺山(築城前は眉間寺)と呼ばれた山に松永久秀が大和支配の拠点として 1564 年に多聞天を祀り、「多聞城」とする。

東は奈良の入り口である奈良坂を、南東に東大寺、南に興福寺を眼下に見下ろせる要地であり、大和支配を目論む久秀にとっては絶好の地であった。三重四階の天守があったと推定される。主な城主は松永久秀、柴田勝家、塙直政^{ぼんなおまさ}。当初、足利義昭、織田信長に従い、大和の支配が認められ、多聞城が名実とも大和の拠点城郭となる。後、謀反を起し、敗れて、1573 年織田信長に引き渡された後廃城となり、破壊された。僅か 16 年だった。久秀は最終的に、1577 年、信貴山城の戦いで自害した。

西日本随一の豪華な城郭であったようである。建物内装は京都旧二条城へ移築、石材の多くは筒井城へ、さらに郡山城にも転用された。安土城をはじめとする近代城郭における先駆けといえるが、定かなことは分らない。地形は昭和中期までは築城当時のまま残されていたが、昭和 23 年若草中学校の建設に伴い、土塁跡も破壊された。周辺には城の石垣として使われたと思われる石がいくつか残っている。

18. 聖武天皇陵・光明皇后陵

別名 佐保山南陵・佐保山東陵 形式 山形

佐保山が西に延びていく丘陵の南斜面に並列するように位置し、二陵とも陵形は山形であり、墳塋^{ふんえい}の状況は明らかでない。陵墓地形図から陵の最高所に円丘状の高まりがあるが、原初の形状を示しているとは考えにくく、幕末の修陵によるものと思われる。

「東大寺要録」によると山陵造営後は東大寺によって管理がなされ、さらに眉間寺が創建され、明治維新時に廃絶するまで隆盛を誇ったようで陵の治定においても寺の存在が大きな理由となった。陵そのものは戦国時代、松永久秀による多聞城の域内に取り込まれ、その際大きく改変された可能性が高い。よって陵の詳細は不明な点が多く鎌倉時代、盗掘記事が伝えられる程度である。

奈良時代を象徴する天皇、皇后の陵で二人の陵墓は寄り添うかのようにすぐ近い位置に設けられている。正面左側の陵墓が聖武天皇陵、少し北東の奥まった所が光明皇后の陵墓。聖武天皇の治世は奈良時代前期～奈良時代中盤(724 年～749 年)の 25 年に及び、奈良時代を語る上で欠かせない人物となっています。

聖武天皇の時代は、当初には「長屋王」を巡る権力争い、藤原広嗣の乱、天然痘の流行による藤原四兄弟の急死など、常に災厄に見舞われた治世となっていた。その結果、仏教に深く帰依し、大仏建立を決意した聖武天皇だったが、その過程では、恭仁京や紫香楽宮、難波宮への遷都を繰り返し、一時的に平城京を放棄したこともあった。『奈良の大仏』は、『信楽の大仏』になる可能性があったなど、一概に「奈良の地」こだわり続けた訳ではない。聖武天皇は治世を終える際には崩御ではなく「譲位」という形で退位することになり、太上天皇として、大仏開眼を見届け、756年に崩御。

また光明皇后は藤原不比等の娘ではあるが、皇族以外から皇后になった例として、後世に藤原氏の子女が皇后となる歴史の端緒となった。聖武天皇と同様、もしくはそれ以上に仏教に深く帰依し、興福寺や法華寺などの各寺院の発展にも大きく寄与したほか、貧しい人を救うための施設である『悲田院』や医療を施す『施薬院』などを建立したことも、有名なエピソードとなっている。

19 奈良女子大学記念館

奈良奉行所跡地

奈良女子高等師範学校本館（国重文）

明治41年（1908年）2月に着工、翌年10月に竣工し、本館として1階は事務室、2階は講堂として利用されていた。昭和24年国立奈良女子大学として生まれ変わった後もこの建物は大学本部と講堂として使用されてきたが、昭和55年本部管理棟が、昭和58年には講堂が別に新築されたため、平成2年『記念館』と名称を改め、保存することとなった。守衛室（附正門）も国重要文化財。

2、興福寺

(by 田代)

南都七大寺の一つで、法相宗大本山。 本尊は釈迦如来

<沿革>

669年に中臣鎌足の病氣平癒のために妻の鏡女王かがみのひめみこ やましるが山背国山階陶原(現、京都市山科区)に堂を建立。山階寺やましなでらと名付けたのが起源。その後672年(壬申の乱)飛鳥(藤原京)に移され厩坂寺うまやきかでら(現、橿原市)となり、更に平城京遷都(710年)にともなって藤原不比等が現在地へ移し、興福寺と改号された(実質的な創建年)。平安時代には藤原氏庇護のもと栄え、一乗院と大乘院の両門跡に分かれ、多くの末寺や子院を抱えた。

その後1180年(源平合戦中)に平重衡による南都焼き討ちによって全焼するも財力で再建し、鎌倉幕府から『大和守護』を命じられ、権力を得る。やがて一乗院と大乘院に分派。南北朝では南朝方、北朝方に、応仁の乱では西方、東方に分かれ反目、戦国末期に織田信長、秀吉による権限の制限、さらに江戸時代1717年に大火の被害、明治初期(1868年)の廃仏毀釈により、無住の寺と化す。一乗院及び大乘院の門主は還俗、子院廃止、寺領没収、境内は奈良公園の一部となった。

一乗院跡は奈良地方裁判所、大乘院跡は奈良ホテルとなっている。僧は春日社神職となった。寺に塀が無く公園の中に寺院がある状態はその時の名残である。しかしその後、南円堂を中心に庶民の観音信仰が集まり、明治15年(1882年)法相宗の大本山となり、寺勢が再興、伽藍も次第に整備され往時の風格を取戻しつつある。

1998年世界遺産登録、平城京での創建1300年を期に中金堂を再建2018年完成した。

- ・北円堂：721年不比等の菩提を弔うため元明上皇げんめいが建立
- ・東金堂：726年元正上皇の病氣平癒祈願のため聖武天皇が建立
- ・五重塔：730年光明皇后の発願で建立
- ・西金堂：734年母、橘三千代の菩提を弔うため光明皇后が建立

<中金堂>

藤原不比等によって、710年に着工、714年に金堂供養が行われる。以来火災と創建を繰り返すが、その度に朝廷や幕府、一般民衆の援助で再建された。しかし1717年の火災で焼失した際は興福寺の力も衰えており、幕府からの援助も満足に受けられず、火災から100年後、1819年に小規模な仮金堂が奈良町の人々の寄進によって再建された。

仮金堂は老朽化のため、H12年に解体され、再建中であつたが、江戸時代の火災焼失から300年を経て今年、平成30年10月に完成、落慶法要を迎えた。

2、一② 東大寺

華嚴宗大本山 本尊 盧舎那仏

<沿革>

聖武天皇が夭折した皇太子^{もといのみこ}基親王の菩提を弔うため、728年に建立した金鐘寺に源を發する。741年国分寺・国分尼寺建立の詔により、大和国の金光明寺にあてられ、国家鎮護の官寺となり、この寺院を前身としている。(金光明四天王護国之寺ともいう)

743年大仏造頭の詔を發す。紫香楽宮にて建立開始するも頓挫、平城京に還都後745年大仏鑄造を開始、752年開眼供養、七堂伽藍も完成(行基の勸進が大きかった) 寺事は良弁、弟子の実忠が引き継ぐ。754年鑑真和上が聖武天皇に授戒。

855年の地震で大仏頭部と建物など倒壊焼失。更に平重衡の南都焼き討ちで伽藍の大半が焼失したが、重源が造東大寺大勸進となって、源頼朝や武家の協力で再建を進める。

1567年松永・三好の乱にて大仏殿や戒壇院など主要伽藍が焼け落ちたが、江戸時代の元禄期に公慶の勸進により再建、現在に至る。

天平期創建の建物

法華堂・南大門・鐘楼(巨鐘)・大仏殿(世界最大の木造建築)・開山堂(良弁)・二月堂など国宝に指定されている

平重衡の乱

平重衡は平安末期の武将・清盛の五男。1181年1月15日清盛の命を受け、東大寺、興福寺など南都の仏教寺院を焼き討ちした事件。

平重衡は平氏滅亡後、木津川畔で斬首にされ、般若寺の門前でさらし首にされた。

三好・松永の乱

1559年松永久秀は木澤長政により築城の信貴山城を改修、城主となり大和へ進出。1564年多聞城を築城。1567年東大寺大仏殿の戦い(多聞城の戦い)が約半年続く。

松永久秀軍と三好三人衆、筒井順慶、池田勝正軍が東大寺周辺で繰り広げた市街戦で松永久秀軍が勝利、その後織田信長に謀反を起し、織田軍に攻撃され、信貴山城は落城、自害、信貴山城は廃城となる。